様　式　C－１９、F－１９、Z－１９　(共通)

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：１２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2011～2015
課題番号：２３５２０２１１

研究課題名（和文）植民地統治下における昔話の採集と資料に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic study on the collection of folk tales and relevant material of folk tales under the colonial rule of the Empire of Japan

研究代表者
石井　正己（Ishii, Masami）

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：３０２５１５６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：　帝国日本は台湾・朝鮮・南洋群島・満洲ならびに中国に植民地統治を拡大し、インドまで視野に入れた大東亜共栄圏まで構想した。その際に各地に伝わる昔話を採集し、その資料を発行した。それによって、各地の民情を把握するとともに、日本とよく似た昔話があれば、それが日本の統治の根拠にされた。そのため、柳田国男や関敬吾が進めた戦後の昔話研究では、学術的価値がないとして切り捨てられた。しかし、その当時に立ち戻って研究をたどることは、国際化に向かう昔話研究のためにも急務であり、日本にはその責任があると考えた。研究を進める中で、各地で作られた教科書との関係も明らかになった。

研究成果の概要（英文）：In the past, the Empire of Japan expanded its sphere of influence in Asia. Japanese Empire even announced to build a “Greater East Asia Co-Prosperity Sphere”. At the time, the imperial government decided to collect folk tales from each territory for the purpose of understanding different cultures and lives in different territories. The folk tales that found to be similar to Japanese folk tales were taken as a tool to justify the war and Japanese domination. Therefore, YANAGITA Kunio and SEKI Keigo who studied the folk tales after the war claimed that there was no academic value in those folk tales. However, nowadays there have been growing interests in studying folk tales in Japan and overseas, returning to the past and rethinking the folk tales is not only necessary for understanding the history, but it should be taken as a responsibility for Japan. In my research, how the folk tales were related to the teaching material in each territory has been found.

研究分野：日本文学　民俗学

キーワード：昔話　植民地　柳田国男　関敬吾　教科書　大東亜共栄圏　アジア　帝国主義

１．研究開始当初の背景

日本の昔話の出発点である柳田国男や佐々木喜善・関敬吾について研究を進めてきた。特に柳田については筑摩書房の『柳田国男全集』、佐々木については遠野市立博物館の『佐々木喜善全集』の編集に関わった。しかし、その際に、戦後の昔話研究から、かつて帝国日本が植民地や占領地にした台湾・朝鮮・南洋群島・満洲ならびに中国における採集と資料が見えなくなっていることに気がついた。戦後には「日本」でなくなったそれらの地域が研究から外されたことはわからなくはないが、そこには政治的な隠蔽があるのではないかと感じられた。そこで、時代に寄り添いながら、それぞれの地域の昔話の採集と資料を検証しはじめた。国際研究フォーラムを開催して、台湾・朝鮮・南洋群島について次のような報告書を刊行し、それがそのまま本研究につながることになった。

(1)　石井正己編『平成 20 年度広域科学教科教育学研究経費報告書 台湾昔話の研究と継承――植民地時代からグローバル社会へ』東京学芸大学、2009 年 3 月発行
はじめに 石井正己
第 1 部 東京学芸大学国際研究フォーラム
開会挨拶 日本民俗学と台湾研究 大島建彦
趣旨説明 なぜ植民地時代を問うのか 石井正己
講演 文学における声と文字（要旨） 川村湊
シンポジウム 台湾昔話の研究と継承
　台湾原住民の昔話と漢族の昔話 林佳慧
　台湾における口演童話活動の展開 游珮芸
　台湾における国語／日本語教育と昔話 伊藤龍平
　台湾から来た花嫁の語り 野村敬子
閉会挨拶 フォーラムの場で考えたこと 中村とも子
植民地時代の昔話／グローバル社会の昔話 石井正己
第 2 部 特別寄稿
台湾の民話・民謡集に見える「日本」 飯倉照平
第 3 部 東アジアを視野に入れた説話研究
日本霊異記と冥報記にみる時間表現の差異 松尾哲朗
「黄英」と「かざしの姫君」――菊の精を中心に 楊静芳

(2)　石井正己編『平成 21 年度東京学芸大学重点研究費報告書 韓国と日本をむすぶ昔話～国際化時代の研究と教育を考えるために～』東京学芸大学、2010 年 2 月発行
再びこの課題に 石井正己
第 1 部 東京学芸大学国際研究フォーラム
趣旨説明 植民地統治から国際化時代へ 石井正己
記念講演 韓日昔話の比較研究 崔仁鶴
昔話 国際化時代における韓国昔話の語り 金基英
シンポジウム 朝鮮・韓国昔話の研究と継承
　朝鮮における口演童話 大竹聖美
　孫晋泰『朝鮮民譚集』の方法 増尾伸一郎
　日韓中昔話の比較研究の可能性 田畑博子
　韓国から来た花嫁の昔話 野村敬子
総括 グローバル社会の口承文芸――「無形文化遺産としての口承文芸」 荻原眞子
第 2 部 東アジアを視野に入れた比較研究
『新撰万葉集』上巻序文に関する一考察 坂倉貴子
中日韓同源昔話の研究――「田螺女房」話型を中心に 楊静芳
埋められた鶏・飛び立つ鶏 三浦百合子

(3)　石井正己編『平成 22 年度広域科学教科教育学研究経費報告書 南洋群島の昔話と教育――植民地時代から国際化社会へ』東京学芸大学、2011 年 2 月発行
台湾・朝鮮、そして南洋群島 石井正己
東京学芸大学国際研究フォーラム 南洋群島の昔話と教育
南洋群島の国語教育と昔話資料 石井正己
日本の南洋群島統治の今日 須藤健一
戦場で語られた昔話 渡部豊子
シンポジウム 植民地・国際化・口承文芸
　インドの昔話とフォークロア・ソサエティ 難波美和子
　パラオにおける神話伝承－海嘯の話を中心に－ 山本節
　フィリピンの民話の今昔－植民地時代から国際社会へ－ 野村敬子
新義州高等普通学校作文集『大正十二年伝説集』に関する考察 金広植

２．研究の目的

この研究は採択以前からの研究の継続として動きはじめた。地域としては歴史的な経緯に従って、まず満洲ならびに中国における昔話の採集と資料を取り上げた。その間の経緯の中で、帝国日本が各地で編纂・発行した国語・日本語教科書に取り入れられた昔話教材の問題も浮上してきた。また、帝国日本はアジアに植民地支配を拡大するのと同時に、ハワイ・北アメリカ・南アメリカに多くの移民を送り出し、そこにも昔話が流通したことがわかってきた。さらには、植民地主義の前提には帝国主義のイデオロギーがあり、ヨーロッパから大きな感化を受けたと考えられるようになった。そして、「大東亜共栄圏」の確立を標榜するようになると、インドが意識され、その独立を精神的に支えるために昔話集を刊行したことも明らかになった。

３．研究の方法

本研究は研究代表者の個人研究として採択されたが、一人で行えるものではない。そこで、それぞれの地域にふさわしい研究者を国内外から講師として招聘し、国際研究フォーラムを開催した。それによって、多くの参加者を得て問題を共有するとともに、その記

録を報告書に残し、研究の持続的な発展を図った。この期間の研究の総括として、日本昔話学会や日韓共同学術会議で、国内外の研究者と学術交流を重ねた。それによって、この研究の重要性を周知することができた。

４．研究成果

本研究と並行して、東京学芸大学博士課程の広域科学教科教育学研究経費で教科書や博物館の問題を取り扱った。両者は不可分の関係にあると言っていいので、ここにはそれらの研究成果も合わせて載せておくことにした。(7)は、この間に研究代表者である石井正己が発表した論文や報告、新聞の批評や書評の中から関連する研究成果を集成したものである。

(1)　石井正己編『平成 24 年度広域科学教科教育学研究経費報告書 帝国日本の昔話・教育・教科書』東京学芸大学、2013 年 3 月発行
第 1 部 中国・満州の昔話と教育
中国「東北」をめぐる民間伝承 飯倉照平
特務機関と人類学者が共に作った満蒙民族学－オロチョンを中心に－ 全京秀
シンポジウム　満州の昔話と教育
「満洲」における昔話資料 千野明日香
満蒙開拓青少年義勇軍 野村敬子
満州の日本語教科書と昔話 石井正己
第 2 部 帝国日本と国語・教科書
帝国日本の植民地教科書 石井正己
近代アイヌ教育史における「教科書」 小川正人
植民地朝鮮の「国語」（日本語）教科書 金容儀
国家・民族・個人にとっての言語 荻原眞子
第 3 部 帝国日本と教科書
井上赳の欧米体験と国語教材 田中瑩一
朝鮮総督府編纂教科書に収録された韓国古典文学 張庚男
第 4 部 関連する論考
朝鮮総督府学務局編修官立柄教俊と朝鮮説話－普通学校用教科書と在朝日本人用尋常小学校補充教本との関わりを中心に－ 金廣植
台湾総督府編纂国語教科書における浦島太郎－国定国語教科書との比較を中心に－ 楊静芳
満州日本語教科書における偉人教材 船越亮佑

(2)　石井正己編『平成 25 年度科学研究費報告書 インドの昔話、その歴史と現在』東京学芸大学、2014 年 2 月発行
趣旨 植民地と昔話研究 石井正己
記念講演 インドの語り―今と昔― マンジュシュリー・チョーハン
記念講演 ガネーシュ神を祀るガネーシュ・チャウト祭の語り－象頭人身のガネーシュ神は、信仰する人の災いを除いてくれる－ 坂田貞二
シンポジウム インドと昔話
インド帝国時代のインド昔話研究 難波美和子
インドから来た昔話―女性の視点から― 野村敬子
インド昔話集の出版 石井正己
総括 説話の道・人の道－ユーラシアと日本－ 荻原眞子

(3)　石井正己編『平成 25 年度広域科学教科教育学研究経費報告書 国際化時代を視野に入れた説話と教科書に関する歴史的研究』東京学芸大学、2014 年 3 月発行
巻頭寄稿 人形浄瑠璃作品に描かれた東アジア 黒石陽子
第 1 部 国際化時代の学術交流の中で
講演 帝国日本と日本語教科書―ハワイ移民の『日本語読本』― 石井正己
講演要旨 帝国日本の文学と教育 石井正己
寄稿 日本における昔話研究の現状と展望 石井正己
第 2 部 植民地日本語(国語)教科書の歴史的研究
趣旨 なぜ植民地教科書を問うのか 石井正己
シンポジウム 植民地日本語(国語)教科書研究の現在
植民地下台湾の三族群の日本語(国語)教科書の比較分析―分割統治を企図した世界観形成― 日下部龍太
朝鮮総督府編纂『普通学校国語読本』研究の成果と課題 金廣植
満洲国の国定「国語」教科書にみえる回鑾訓民詔書からの影響 船越亮佑
第 3 部 東アジアの昔話研究の歴史と未来
趣旨 昔話研究の未来をどう考えるか―柳田国男『昔話覚書』から― 石井正己
講演 父関敬吾のこと 関信夫
寄稿 関敬吾先生の思い出 野村敬子
シンポジウム 東アジアの昔話研究の再検討
昔話と比較研究の問題点―文芸比較の方法論に向けて― 廣田收
『韓国口碑文学大系』の話型と昔話通観の話型の対応をめぐって―＜3　騙す騙される＞の例を中心に― 李市埈
シンデレラ型の昔話の比較―中国を中心に― 立石展大

(4)　石井正己編『平成 26 年度科学研究費報告書 植民地時代の東洋学 ネフスキーの業績と展開』東京学芸大学、2014 年 10 月発行
趣旨 植民地時代の東洋学 石井正己
講演 「伊能嘉矩の台湾研究に関する方法論的再検討―<巡台日乗>（1897 年）の精読を通して― 全京秀
シンポジウム ネフスキーの業績と展開
ニコライ・ネフスキーのアイヌ叙事詩研究に寄せて 荻原眞子
オシラ祭文再考 石井正己

聖水信仰の発見―ネフスキーの提起と折口信夫の展開― 保坂達雄
論考 ネフスキーの『台湾鄒族語典』について 楊静芳
資料 「MIKI」(神酒) ニコライ・ネフスキー著 荻原眞子、荻原照男訳
資料 柳田国男あての中道等書簡(ニコライ・ネフスキー旧蔵) 石井正己、石井季子、石井久美子筆録
資料 あるシベリアの昔話の語り手 アザトウスキー著 関敬吾訳 野村敬子筆録
論考 新義州高等普通学校日本語作文集『大正十二年伝説集』再論―寺門良隆と金孝敬を中心に― 金廣植
論考 「赤ずきん」と「カテリネッラ」―昔話の残酷さについてのノート― 剣持弘子

(5) 石井正己編『平成26年度広域科学教科教育学研究経費報告書 国際化時代を視野に入れた文化と教育に関する総合的研究』東京学芸大学、2015年3月発行
講演 無形文化遺産と日本 石井正己
特集 国境を越える東アジア
趣旨 なぜ国境を越える東アジアを問うのか 石井正己
講演 日本の中世近世歌謡研究―東アジア文化圏から見た二・三の課題― 真鍋昌弘
講演 宗教民族学者金孝敬の帝国背景と植民性 全京秀
シンポジウム 国境を越える東アジア
鹿児島県枕崎市における東・東南アジアからの漁業研修生 橋村修
移民と故郷―沖縄・金武町における移民者と住民の交流― 陳泌秀
移住女性の「語り」からエージェンシーを読み取る―投書、詩、「昔話の語り」の事例から― 柳蓮淑
国境を越える東アジア―海の想像力― 野村敬子
多文化社会化がもたらす韓国軍隊の変化 李修京
特集 帝国主義・植民地主義と博物館
講演 ロシア帝国と博物館 荻原眞子
シンポジウム 植民地主義と博物館
樺太庁博物館と郷土研究 鈴木仁
李王家博物館から始政五年記念朝鮮物産共進会「美術館」(朝鮮総督府博物館)へ―1915年の郷土資料(史料)調査をめぐって― 金廣植
「満洲国」の博物館事業 大出尚子
論考 保科孝一の日本語教育論 船越亮佑
ノート 二つのナショナリズムの中で読まれていた小学国語読本 松田潤治郎

(6) 『昔話　研究と資料』第43号、日本昔話学会、2015年3月発行
講演 蟻通の系譜 鈴木健之
講演 韓日昔話の研究、その過去と未来 崔仁鶴
座談 芸術としての昔話 渡部豊子・平良美樹・石井正己
シンポジウム 帝国主義・植民地主義と昔話研究
帝国主義・植民地主義と昔話研究―一国民俗学と比較民俗学のはざまから― 石井正己
植民地期朝鮮における昔話研究の現況と課題 金廣植
エーバーハルトの訪中前の中国昔話研究状況―エーバーハルトの中国昔話タイプはどのようにして生まれたのか、鍾敬文らの活動から、その成立の背景を探る― 馬場英子
佐藤陸三さんの従軍記録 野村敬子
フォークロア研究と女性―帝国の境界で― 難波美和子
『韓国口碑文学大系』の話型の問題をめぐって 李市埈

(7) 石井正己編『平成23年度～平成27年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 植民地統治下における昔話の採集と資料に関する基礎的研究』東京学芸大学、2016年2月発行
植民地主義と口承文芸研究
柳田国男とグローカル研究―『遠野物語』と『昔話覚書』―
帝国主義・植民地主義と昔話研究―一国民俗学と比較民俗学のはざまから―
日本における昔話研究の現状と展望
昔話研究の未来をどう考えるか―柳田国男『昔話覚書』から―
なぜ植民地時代を問うのか
植民地統治から国際化時代へ
南洋群島の国語教育と昔話資料
満州の日本語教科書と昔話
植民地と昔話研究
インド昔話集の出版
植民地時代の東洋学
オシラ祭文再考
帝国日本の植民地教科書
なぜ植民地教科書を問うのか
帝国日本と日本語教科書―ハワイ移民の『日本語読本』―
なぜ国境を越える東アジアをテーマにするのか
無形文化遺産と日本
孫晋泰の民譚・民謡・神歌の研究
植民地時代の昔話／グローバル社会の昔話
『1923年朝鮮説話集』の翻訳にあたって
河童(kappa)は川に棲めるか
ネフスキーの功績
言語の才人　遺産は多彩
帝国日本の文学と教育
山口昌男のいた時代
ハワイ移民の「今浦島」たち
柳田国男と黒潮文化―『海南小記』から『海上の道』へ―
薩南諸島で考える海上の道

植民地を旅した作家たち
無形文化遺産とアジア
日本のグリム・佐々木喜善の偉業
坂野徳隆著『風刺漫画で読み解く日本統治下の台湾』を手にして
飯倉照平著『南方熊楠の説話学』
真鍋昌弘著『中世歌謡評釈　閑吟集開花』
加藤直樹著『九月、東京の路上で　1923 年関東大震災　ジェノサイドの残響』
佐藤健二著『柳田国男の歴史社会学　続・読書空間の近代』
永井彰子著『聖人・托鉢修道士・吟遊詩人　ヨーロッパに盲人の足跡を辿る』

(8)　石井正己編『博物館という装置－帝国・植民地・アイデンティティ－』勉誠出版、2016 年 3 月発行
なぜ帝国主義・植民地主義と博物館を問うのか 石井正己
Ⅰ 帝国主義の欲望を担った博物館
「帝国」という空間における博物館を考える 中見立夫
帝国主義的博物館に刻印された「欲望の社会史」 全京秀
Ⅱ 帝国日本で生まれた博物館の歴史
奈良の古物をめぐるイメージとナショナリズム――正倉院御物を中心に 角南聡一郎
コラム 森鴎外と帝室博物館 石井季子
渋沢敬三の「日本産業史博物館」構想にみる農林水産業への眼差し 橋村修
保谷の民族学博物館から千里の国立民族学博物館へ 石井正己
Ⅲ 帝国日本が営んだ外地の植民地博物館
台湾総督府博物館の歴史 日下部龍太
植民地期朝鮮における博物館の展開と朝鮮人 金廣植
樺太庁博物館にみる植民地と郷土像 鈴木仁
「満洲国」の博物館事業と帝国主義・植民地主義 大出尚子
Ⅳ 帝国の進出と収集されたコレクション
ロシア帝国の成立とクンストカメラ=ピョートル大帝人類学民族学博物館（MAE）のアイヌコレクション アンドレイ・ソロコフ
ロシア帝国と植民地文化――カムチャダルの犬橇に寄せて 荻原眞子
「帝国」を逸脱する視線――南方熊楠の大英博物館における筆写作業をめぐって 松居竜五
コラム 柳田国男とヨーロッパ博物館 石井正己
Ⅴ ローカルな博物館とグローバルな博物館
ドイツ・フォークトラント地方の地域おこしと野外博物館 加賀美雅弘
コラム カッセル・グリム兄弟博物館とユネスコ世界記憶遺産 虎頭恵美子
ヨーロッパ・地中海文明博物館の開館　出口雅敏
コラム 海外移住資料館の視角 松田潤治郎
コラム 彝族と博物館、彝族の博物館 松岡格
Ⅵ 文化財返還の根拠と歴史を逆なでする博物館
日本の外地朝鮮統治と博物館、古蹟発掘と文化財 崔錫栄
植民地主義と博物館・博物館学 君塚仁彦

(9)　崔仁鶴・石井正己編『国境を越える民俗学 日韓の対話によるアカデミズムの再構築』三弥井書店、2016 年 5 月発行
2015 年日韓共同学術会議 蘇晃玉
◆現代における民俗学の意義◆
民俗学の伝統とその現代的意味 李相日
韓国仏教と民俗学 洪潤植
日韓共同学術会議の足跡—口承文芸を中心に— 崔仁鶴
民俗学研究の争点 崔來沃
◆説話・昔話研究の成果と課題◆
孫晋泰の歌謡・神歌・民譚の研究 石井正己
在日外国籍妻の民話 野村敬子
留学生を交えた昔話の聞き取り・新潟県小国の昔話を訪ねて 馬場英子
河童伝承における相撲—「相撲を挑む」モチーフをめぐって— 金容儀
◆朝鮮・韓国の歴史と民俗学◆
1913 年の朝鮮総督府の朝鮮説話調査に現れる帝国主義的説話観 姜在哲
朝鮮総督府学務局編輯課と「朝鮮民俗資料」 金廣植
『朝鮮民俗学概要（古代～中世編）』の内容と特徴 任章赫
◆民俗学におけるアジアの視点◆
海の民俗学—祭事での魚利用と海を渡る魚名— 橋村修
東アジアにおける民俗劇の比較研究—タルチュム（仮面劇）・儺戯・神楽を中心に— 尹光鳳
東アジアにおける歌謡研究—具体的事例利用による機能論に向けて— 真鍋昌弘
シベリアからみる極東・朝鮮・日本—鳥竿と鳥の表象について— 荻原眞子
日韓共同学術会議の意義—新たな民俗学を構築するための広場をつくりたい— 石井正己

５．主な発表論文等
（研究代表者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）
① 石井正己、説話にみる言霊—民俗学の視点をからめて—、悠久、査読無、第 140 号、2015、pp.64-72
② 石井正己、私たちは文学を伝えられるか—東日本大震災以後の文学研究から—、日本文学、査読有、第 64 巻第 5 号、2015、pp.1-10
③ 石井正己、帝国主義・植民地主義と昔話研究——国民俗学と比較民俗学のはざま

から―、昔話　研究と資料、査読有、第43号、2015、pp.35-39
④ 石井正己、声の発見、声の喪失、古代文学、査読有、第54号、2015、pp.2-10
⑤ 石井正己、櫻井美紀さんの残した遺産―語りの実践編―、語りの世界、査読無、第58号、2014、pp.70-75
⑥ 石井正己、櫻井美紀さんの残した遺産―語りの研究編―、語りの世界、査読無、第57号、2014、pp.6-11
⑦ 石井正己、「昔話の継承」の現代性、昔話研究と資料、査読有、第 42 号、2014、pp.65-74
⑧ 石井正己、昔話にみる食文化　第 12 回花咲か爺、vesta、査読無、第86号、2012、pp.66-69
⑨ 石井正己、柳田国男とグローカル研究、現代思想、査読無、第40巻第12号、2012、pp.164-178
⑩ 石井正己、昔話にみる食文化　第 11 回笠地蔵ほか、vesta、査読無、第 85 号、2012、pp.70-73
⑪ 石井正己、柳田国男と説話研究、説話文学研究、査読有、第46号、2011、pp.45-54
⑫ 石井正己、昔話にみる食文化　第 10 回愚か村話、vesta、査読無、第84号、2011、pp.66-69
⑬ 石井正己、昔話にみる食文化　第 9 回馬鹿婿、vesta、査読無、第 83 号、2011、pp.66-69
⑭ 石井正己、昔話にみる食文化　第 8 回屁ひり爺ほか、vesta、査読無、第 82 号、2011、pp.64-67

〔学会発表〕（計 14 件）
① 石井正己、孫晋泰の民譚・民謡・神歌の研究、日韓共同学術会議、2015 年 8 月 24 日、ソウル（韓国）
② 石井正己、無形文化遺産としての昔話、韓国比較民俗学会、2014 年 11 月 14 日、木補（韓国）
③ 石井正己、柳田国男『遠野物語』の現代的意義、全南大学校日語日文学会、2014 年 11 月 13 日、光州（韓国）
④ 石井正己、薩南諸島で考える海上の道、島を結ぶ学びと連携、2014 年 10 月 4 日、鹿児島大学（鹿児島県鹿児島市）
⑤ 石井正己、一国民俗学と比較民俗学のはざまで、日本昔話学会大会、2014 年 7 月 6 日、東京学芸大学（東京都小金井市）
⑥ 石井正己、声の発見、声の喪失、古代文学会例会、2014 年 6 月 7 日、共立女子大学（東京都千代田区）
⑦ 石井正己、柳田国男と黒潮文化、第 9 回沖縄国際学術会議、2014 年 5 月 19 日、ソウル（韓国）
⑧ 石井正己、何をもって昔話の継承とするのか、日本昔話学会大会、2013 年 7 月 7 日、関西外国語大学（大阪府枚方市）
⑨ 石井正己、日本における昔話研究の現状と課題、2013 年アジア説話学会国際学術大会、2013 年 10 月 18 日、光州（韓国）
⑩ 石井正己、帝国日本の文学と教育、2013 年韓国日語日文学会夏季大会、2013 年 6 月 15 日、清州（韓国）
⑪ 石井正己、災害と日本文化、全南大学校日語日文学会、2013 年 1 月 14 日、光州（韓国）
⑫ 石井正己、河童(kappa)は川に棲めるか、華川市・ソウル大学校開催川の文化フォーラム、2012 年 10 月 22 日、ソウル（韓国）
⑬ 石井正己、テクストとしての柳田国男、日本民俗学会第 64 回年会、2012 年 10 月 6 日、東京学芸大学（東京都小金井市）
⑭ 石井正己、ネフスキーの功績、ニコライ・ネフスキー生誕 120 年会議、2012 年 10 月 3 日、サンクトペテルブルグ（ロシア）

〔図書〕（計 13 件）
① 崔仁鶴・石井正己（編著）、三弥井書店、国境を越える民俗学、2016、222
② 石井正己（編著）、勉誠出版、博物館という装置、2016、391
③ 石井正己、三弥井書店、テクストとしての柳田国男、2015、369
④ 石井正己、三弥井書店、全文読破柳田国男の遠野物語、2015、207
⑤ 石井正己、ＮＨＫ出版、柳田国男　遠野物語、2014、107
⑥ 石井正己（編著）、三弥井書店、震災と民話、2013、210
⑦ 石井正己（編著）、三弥井書店、子守唄と民話、2013、202
⑧ 石井正己、河出書房新社、いま、柳田国男を読む、2012、230
⑨ 石井正己、岩田書院、柳田国男を語る、2012、276
⑩ 石井正己（編著）、三弥井書店、震災と語り、2012、183
⑪ 石井正己、三弥井書店、昔話と観光、2012、228
⑫ 石井正己（編著）、三弥井書店、児童文学と昔話、2012、177
⑬ 石井正己（編著）、三弥井書店、昔話にまなぶ環境、2011、228

６．研究組織
(1)研究代表者

石井　正己（ISHII Masami）
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：30251565